

単収10t！理想的なハウスミカンの仕立て法は？

【研究のポイント】

近年の燃油価格の高騰で、ハウスみかん生産者は、生産コストが上昇し、経営が厳しくなっています。

産地では、ハウス被覆の多層化や温度管理などの省エネ対策を徹底し、燃油使用量の削減に取り組んでいます。

果樹グループでは、生産コストを削減する省エネ栽培法の確立だけでなく、大分県オリジナルの技術に基づき、新しい「垣根仕立て法」を開発し、栽培の省力化と果実収穫量増加の両立を実証しました。



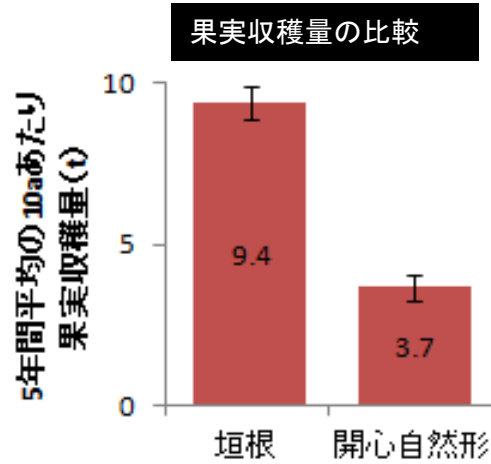
垣根仕立ての結実状況

【研究の成果】

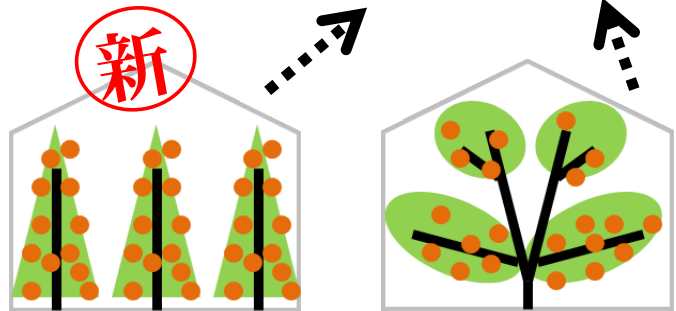
ハウスミカンの垣根仕立てに最適な栽植密度を4種類の試験区で検証した結果、10aあたり500本植え（畝幅2m×株間1m）が最も優れ、改植2年目の初結実で5t以上（従来栽培法の成園並み）、改植4年目で10aあたり10tの果実収穫量が得られました。

10aあたり果実収穫量の5年間平均では、従来の開心自然形の2.5倍でした（グラフ参照）。

また、新たな栽培方法ではネットを利用することで、枝つり作業（枝をヒモ等でつり上げて、全ての果実にまんべんなく光をあてる作業）が従来の半分以下の労力に軽減できました。



ネット利用で枝つり作業の省力化



【生産者の声】



JAおおいた杵築地域柑橘研究会 青年部

収量が2倍になれば、ハウスミカン栽培も続けられる。改植後すぐに従来の成園並みの収量が確保でき、高単収になるのは魅力的です。新たな栽培技術として大いに期待しています。

【連絡先】

担当：農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム  
 TEL：0978-72-0407  
 住所：国東市国東町小原4407